Check 今月の栽培ポイント

営農情報

4月

詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231
尾道北営農センター ☎0848-29-9611
向島営農センター ☎0848-44-2106
因島営農センター ☎0845-25-6161
世羅営農センター ☎0847-25-5029
浦崎支店 ☎0848-73-3311
御調支店 ☎0848-76-2242
世羅西支店 ☎0847-37-7100

水稲

今年の田植えも間近となりました。健苗育成・適期移植と田植え前後の初期管理は、活着促進・初期成育の確保につながる重要な作業となります。天候や圃場条件に対応した的確な管理に努めましょう。

【代掻き】

代掻きは、田んぼの表面を柔らかく均平にして、田植えをしやすくするとともに、作土の表面にある稲株・ワラ・雑草などを埋め込む、水持ちを良くし除草剤の効果を高めるなど、いろいろな役割を担っています。

畔からの漏水が気になる圃場では、代掻き前(入水前)に圃場の外周をトラクターで踏み固めましょう。

代掻き作業の水深は、耕運した土壌が少し見える3～5㎝程度とし、均平に重点をおいて、練りすぎないようにしましょう。代掻きを過度に行うと、通気性や透水性を損なって根腐れなどの弊害を起こし、生育不良につながりますので注意しましょう。

【移植】

◆箱処理剤

箱処理剤(殺虫殺菌剤)は、落ち着いて作業ができる田植え前日(剤によってはもっと前に施用可能)に行いましょう。

また、毎年、箱処理剤と除草剤の1kg粒剤を間違えて使用する事故が何例か発生しております。除草剤が散布された箱苗は生育が見込めなくなりますので、間違えないよう再度確認しましょう。

◆イオウ欠乏対策

近年、初期生育停滞の原因の1つとして、イオウ欠乏の発生があることが明らかになってきました。イオウ欠乏になると下葉から黄化し、酷い時には分げつが止まります。その後、生育の後半で窒素を吸収し、草丈が長くなり、倒伏の危険性が高まります。

対策の1つとして、田植え前日に「ダーウィン2000」または、「畑のカルシウム」を苗箱1箱当たり250g播いて、田植えをすることでイオウ欠乏症が軽減できます。

◆植付

①代掻き後、土が落ち着いてから移植します。代掻き後に初期除草剤を使用した場合は、散布から田植えまで7日間空ける必要があります。

②植付け本数は1株あたり3～5本としましょう。欠株を心配してそれ以上の本数で移植した場合、分げつ過剰となり、下葉枯れや倒伏のリスクが高まるので注意が必要です。

③欠株がひどいときには補植しますが、10株中に1株飛んでいたり、1株に1～2本しか植わっていなくても全体の収量には影響しません。

④補植後の置き苗はいもち病の発生源となるので、速やかに圃場外へ出しましょう。

⑤植付け深度は、浮き苗防止や除草剤の薬害防止のため、3～4㎝程度で移植しましょう。

⑥株はりの良い品種、圃場環境では、圃場全体の風通しを良くするため、植付け間隔を広めにとりましょう。

◆田植え後の水管理

活着するまでやや深水で管理します。苗の水没には十分注意してください。

深水管理は、保温効果や風による蒸散から苗を守り活着を早めます。

【除草剤】

水持ちの悪い圃場は、初期剤と中期剤、場合によっては後期剤を使用する体系防除を実施してください。

田植えをした圃場で、活着の悪い圃場や植え傷みをした圃場では、除草剤の散布時期をずらし、苗の回復を待ってから作業してください。

◆注意事項

農薬登録内容の厳守はもちろんのこと、効果の安定・環境への影響軽減のために、農薬散布後は、必ず7日間止水しましょう。

柑橘

【剪定】

労力的に作業実施が困難な方も、強い返り枝をノコで間引くだけで、薬剤がかかりやすくなり、薬剤費の軽減と正品率

▲花母枝は枝の付け根から切除する

向上を図ることができます。

八朔などで花母枝（団子花がついた枝）は切除しましょう。

【防除】

品種ごとに花の咲く時期が異なります。いしじやネーブルは開花が早く、清見やはるかは開花が遅い品種です。適期防除を心掛けましょう。

◆ケムシの防除

ケムシが大量発生すると新芽や花を食害され、収量が著しく減少します。多発の場合は早めに防除しましょう。また、ケムシの発生源である園地周辺のアカメガシワは伐採しましょう。

◆コアオハナムグリ

花粉を求めて飛来し花に潜り込み、爪で子房を傷つけます。晴天の日、気温の高い日に飛来が多く、花粉量の多い品種を好むので八朔、ブンタンなどは注意が必要です。

花上には午前8時頃から増え始め、10～12時が最高となります。午後3時を過ぎると急に少なくなります。（花粉の多い品種は、夜間も樹上に留まる場合があります。）

そのため防除の時間帯は、午前10時頃が適期となり夕方は適しません。

◆ヒラタケシキスイ

花の蜜を求めて飛来します。ハナムグリと異なり、終日花に寄生しています。爪で子房を傷つけます。

◆アザミウマ類

アザミウマ類も訪花害虫に含まれますが、花の時期以外にも果実に加害します。

▲コアオハナムグリ

▲ハナムグリ被害果（爪でひっかいたような傷が特徴）

▲アザミウマ被害

チャノキイロアザミウマの発生源は、マキなどの防風樹です。被害の深刻な園地はマキを伐採し、防風ネットを整備しましょう。

また、従来の薬剤が効きにくいミカンキイロアザミウマの被害も増えていますので注意してください。

◆灰色カビ病

果実上に残った花びらにカビが生えて、果実に傷がつく病気です。安政柑も被害の出やすい品種です。防除と併せて花びらを落とすと被害が軽減できます。

◆かいよう病の防除

かいよう病を防ぐには、発芽前防除と展葉期の防除が重要になります。多発園では、5月下旬にも薬剤を散布しましょう。

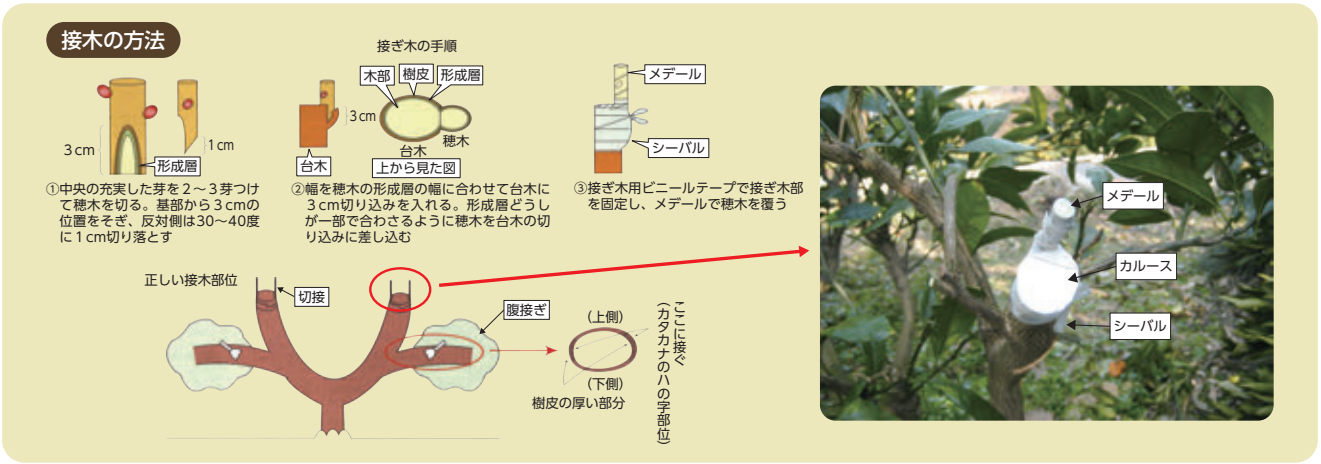
【品種更新】

更新する際は、適地適作と労力を考えながら実施しましょう。（※しらぬひの高接樹は、酸高が問題となるので推進していません。更新の際は苗木を植えましょう。）

また、令和4年から農研機構が育成した登録品種を自家増殖する場合は、有償となっていますので注意しましょう。（璃の香・みはやなど）

◆接木

接木更新は、結果するのが早いという利点と経済寿命が短いという欠点があります。



JAカードを紛失されたら 直ちにご連絡ください。盗難、紛失専用ダイヤル 0120-159674（24時間受付、年中無休）

◎**穂木の管理**

剪定時（発芽前）に採穂し、葉柄を落とし黒ポリに包んで冷暗所で保管します。

▲穂木
写真は２芽で削っているが穂木が多くある場合は３芽で削ると必ず外芽が取れるので台木にさすとき穂木を選ぶ必要がなくなります。腹接ぎ用は上芽で１芽の穂木を使用します。

◎**接木方法**

・**腹接ぎ**

枝を余り切らずに主に横枝に接ぐ方法です。樹勢が弱りにくい利点がありますが、誘引を怠ると樹形が乱れやすいので注意が必要です。

・**切り接ぎ**

切り接ぎは主枝を切り詰め接ぐ方法です。そぎ接ぎと剥ぎ接ぎがあります。そぎ接ぎは技術が必要ですので剥ぎ接ぎをお勧めします。４月下旬ごろから皮が綺麗に剥げますので、剥ぎ接ぎが可能となります。

５月上旬を過ぎると活着が悪くなるので注意してください。

【花肥料の施用】

４月下旬から５月上旬にかけ、花の多い園地では硫安を10アールあたり20kg施用しましょう。

【温州ミカンの芽かき】

本年度の温州ミカンは、不作の樹が多いと予想されます。花の近くから発生する新梢や遅い伸びの新梢を芽かきすることにより、着果が促進されます。

【苗木の管理】

植え付け１カ月後から肥料を施用します。フルーツ元気８６６の場合は、１本の樹に一握り程度を毎月10月まで施用します。苗木用１発肥料のエコロング４１３の１４０日タイプは、１本あたり１４０gを１回施用します。新梢が伸びている間は、アブラムシやミカンハモグリガ防除時に元気一番とケルパックを混用散布しましょう。

落葉果樹

【共通の管理】

急激な温度上昇により生育が早まっています。管理作業の遅れが出ないようにご注意ください。

◆**果実の肥大期（細胞肥大期）**

多くの落葉果樹が果実肥大期に当たります。開花から約40日間は果実の細胞数が増える期間です。

貯蔵養分を無駄にしないためにも、房作りや摘粒（ぶどう）・摘果（桃・柿・梨）など、着果量の調整は早めに行いましょう。これが、高品質生産のポイントになります。

ぶどう

【新梢伸長期～ジベ処理期～開花期】

◆**誘引**

新梢の先端を下げることによって、果房に流れる養分の量を増やし、果粒肥大を促進させる効果があります。生育の早い新梢から順に誘引しましょう。

◆**敷ワラ**

早く敷くと、地温が上がらずほう芽が遅れ、霜害を受けやすくなるので霜の心配がなくなってから敷いてください。

◆**ジベレリン処理**

展葉始めからの日数・展葉枚数等を参考に、花穂の進み具合をみながら処理をしていきます。特に、ジベ処理前後一週間の気象条件（温度・日照）が花穂の進みや実止まりに大きく影響しますので注意して作業してください。

◆**房づくり**

果実肥大促進のため早めに摘粒を行い、１房当たりの着粒数が適正になるようにしてください。

もも

【摘果】

満開後40日頃から本摘果を行います。

・**葉数による摘果の目安**

早生…１果あたり40枚
中生…１果あたり50枚
晩生…１果あたり60枚

・**枝による摘果の目安**

短果枝…５本に１果
中果枝…１本に１果
長果枝…１本に２果

※急激な摘果は生理落果（核割れ）の原因となるので注意してください。

摘果した果実は病気の原因となるため、園外へ持ち出してください。

乾燥が続く場合は、灌水を行いましょう。

【注意する病害虫】

アブラムシ類、モモチョッキリゾウムシ、ケムシ類、カイガラムシ類、せん孔細菌病、灰星病、黒星病、うどんこ病、果実赤点病

チョッキリゾウムシ

アブラムシ

なし

【灌水】

開花から45日間が細胞分裂期にあたります。この期間の乾燥は小玉果の原因になりますので、乾燥させないように灌水をしっかり行ってください。

【摘果】

果実肥大を目的として、変形果・病害虫被害果などを中心に摘果します。一度に終わらせようとせず、開花後数回に分けて行ってください。

いちじく

新梢伸長期に入ります。

◆芽かき

いちじくは、すぐに樹冠内部が過繁茂になり、日照不足になってしまいます。熟期の遅れや着色遅れを引き起こすので定期的に園内を回り、残す枝は1㎡当たり4～5本程度を目安に実施しましょう。

◆ねん枝・誘引

若木など樹勢が強い樹では、新梢が立ち気味になるため、樹形を整えるためにもねん枝・誘引を行いましょう。

また、主枝・亜主枝が直接日射を受けると、枝・幹の日焼けを引き起こすため、影になるよう誘引ヒモなどを使って誘引しましょう。

◆灌水

土壌の乾燥は生育不良の原因となりますので、乾燥が続く場合は灌水を行いましょう。

◆注意する病害虫

そうか病、ネコブセンチュウ、アイノキクイムシ、ケムシ類

家庭菜園

4月に入ると様々な野菜の定植ができます。しかし、多くの春夏野菜は高温を好みます。あまり早すぎないよう注意しましょう。

今月号では、購入苗の見分け方と定植についてご紹介します。

【購入苗の選び方】

早い時期から苗が店頭に並びますが、暖かくなってから植付けるほうが無難です。

極端な若苗、老化苗を植付けると、その後の管理が非常に難しくなります。

キュウリ、ナス、トマトなどが、毎年土壌病害で枯れてしまうような畑では、割高ですが接ぎ木苗を選びましょう。ただし、台木の種類によって防げる病害は違います。

苗の植付け適期は(表1)を参考にしてください。

◆ポイント

良い苗とは

①節間が短く太く、徒長していないもの
②根がしっかり張っているもの(ただし、巻いていない)
③病害虫に侵されていない
④子葉がしっかりしている
⑤老化苗(古い苗)でない

(表1)苗の植付け適期

品目	植付け適期	備考
キュウリ	本葉3枚	
メロン	本葉3枚	
カボチャ	本葉4枚	
スイカ	本葉5枚	
ナス	本葉7枚	1番花の蕾がはっきりわかるもの
トマト	本葉8枚	1番花の開花始め
ピーマン	本葉10枚	1番花が開花しているもの
トウモロコシ	本葉3枚	
オクラ	本葉3枚	
エダマメ	本葉1枚	

【定植】

地温が上がってから(18℃以上)植えましょう。

前日に植え穴にたっぷり灌水して、畝内を十分湿らせておきます。風のない晴天日の午前中に植付けを行いましょう。

(表2)の株間で植付けて、植付け後なじませる程度に手灌水を行います。

トマトやカボチャは寒さに比較的強いので、順番に植える場合は最初にトマト、次にカボチャを植付けましょう。

ピーマン、ナス、オクラは十分に暖かくなってから植えましょう。

透明マルチと、ビニールやポリエチレンのトンネルを使用すると定植時期を早めることが可能です。

◆ポイント

①晴天日の午前中に植付けましょう。
②極端な浅植え、深植えは止めましょう。
③根が活着するまでは乾燥に注意して、活着後はやや灌水を控えましょう。

(表2)定植時の畝幅と株間

品目	畝幅	株間
キュウリ	100cm	60～80cm
メロン	250cm	80cm
カボチャ	300cm	90～100cm
スイカ	300cm	80～100cm
ナス	150cm	50cm
トマト	100cm	40～50cm
ピーマン	120cm	45～50cm
トウモロコシ	150cm	30cm(2条)
オクラ	100cm	30cm
エダマメ	50cm	30cm

(向島営農センター)☎0848-44-2106　(因島営農センター)☎0845-25-6161　(世羅営農センター)☎0847-22-1173